

イタドリの優良系統選抜について

林業試験場 特用林産部 杉本小夜

[はじめに]

イタドリは県内に広く分布し、本県の主要山菜の一つとなっている。現在消費されているイタドリの殆どは山採りであるが、近年、乱獲や環境の変化、シカの食害等により、太く高品質のものは年々確保が困難になってきている。イタドリは野生植物であり、成長量等の個体差が大きいと考えられるため、今後、より効率的な栽培を目指すには、収量が多く加工し易いなど栽培に適した株を用いることが重要である。今回、栽培に適した優良系統株の選抜を目的に、県内自生地から候補株の選定および挿し木増殖について検討したので、その結果を報告する。

[材料と方法]

1) 自生地からの優良系統候補株の選定

春の若芽の時期に、根本直径が 1.5 cm以上の茎が 2 本/株以上発生していることを条件として株を選定し、春の若芽の茎色、茎本数・直径および株の雌雄について調査した。

2) 優良系統候補株自生地の環境調査

今後の栽培条件に活かすため、自生地の植生、日照、土壌等の環境条件を調査した。

3) 優良系統候補株の挿し木増殖の検討

6 月に候補株から採取した枝で挿し木を行い、発根率を調査した。

[結果と考察]

1) 自生地からの優良系統候補株の選定

県下 9 地域から優良系統候補株 32 株を採取した (図 1)。1 株当たりの茎平均発生本数 (直径 1.5 cm以上) は 3 本であり、5 本以上発生している株は希であった (図 2)。

茎の色については青系が 65%と最も多く、続いて赤系 20%、中間 15%であった (図 3)。雌雄については、雌株が 79%と圧倒的に多かった (図 4)。これらの傾向は周辺の自生イタドリでも同様であった。

2) 優良系統候補株自生地の環境調査

自生地の多くは比較的痩せ地の弱酸性土壌で (図 5)、日当たりの良い場所であり、全天率は 53%であった。管理については放置が 45%であり、この場合ススキ等の進入が見受けられた。また、食害跡や聞き取り調査から、殆どの自生地でシカの食害が確認され、栽培の際には獣害対策が必須であると考えられた。

3) 優良系統候補株の挿し木増殖の検討

6 月の挿し付け後、約 2 ヶ月後から発根が見られた。発根率は 0~66%と株によりバラツキが多かった (図 6)。今後、発根率と成長量を考慮して一次選抜を行い、一次選抜苗は同一条件下で栽培し、最終的な選抜を行う予定である。



図1 優良系統候補株採取場所

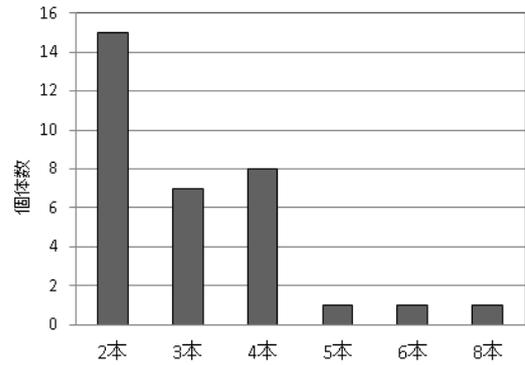


図2 1株当たりの茎発生本数(直径1.5cm以上)

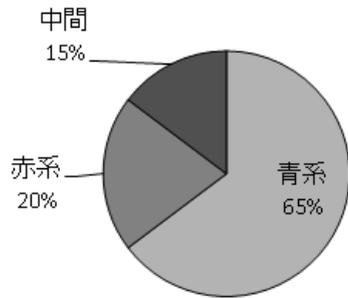


図3 優良系統候補株の茎色別割合

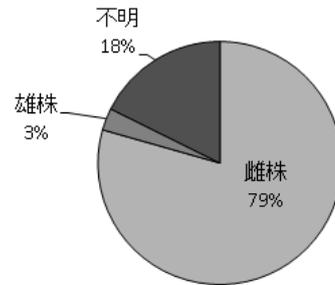


図4 優良系統候補株の雌雄の割合

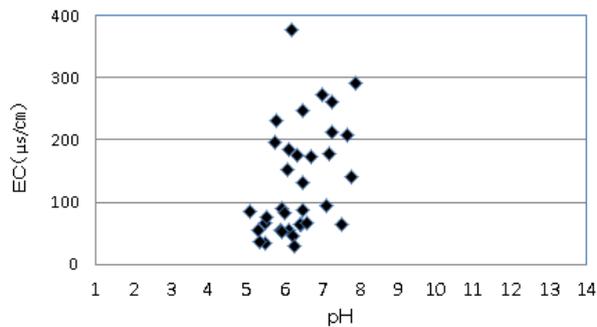


図5 優良系統候補株自生地の土壌 pH および EC

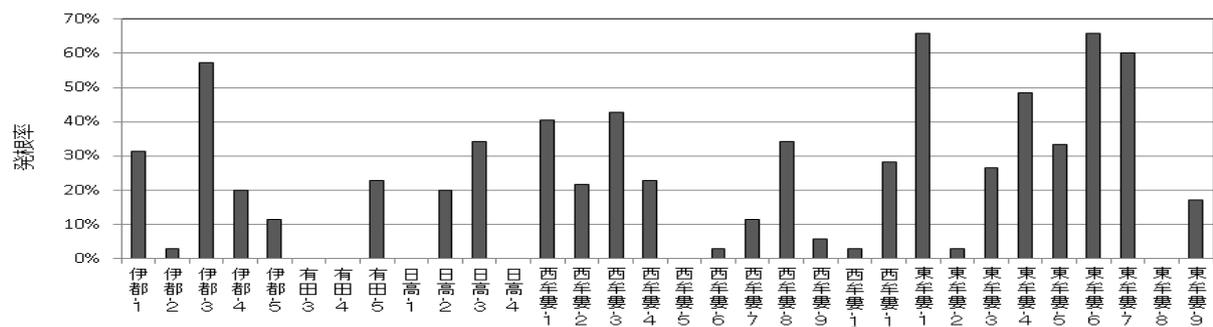


図6 優良系統候補株からの挿し木発根率